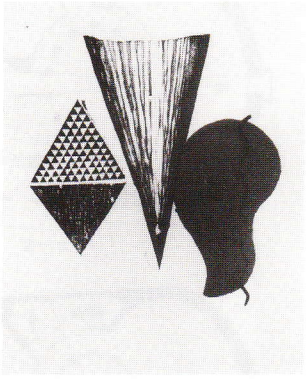
特別展 恩地孝四郎

主陳列室(地下1階)
特別陳列室(2階)

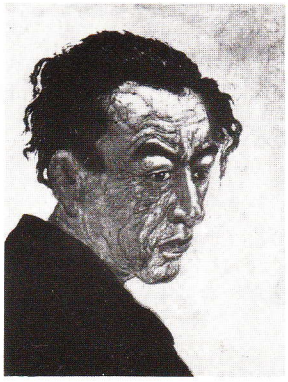
昭和57年7月7日(水)—8月15日(日) 渋谷区立松濤美術館

休館日＝7/11・19・26・8/2・8

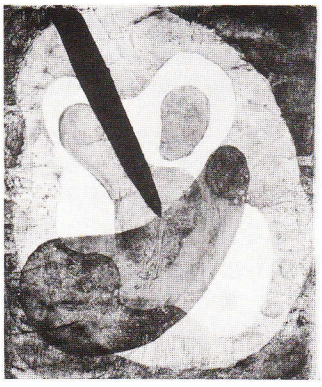
講演 午後2時より
- ●7月10日(土) 「大正文化・白秋と孝四郎」 対談 山本太郎・恩地邦郎
- ●7月31日(土) 「恩地孝四郎と日本の近代版画」 小倉忠夫(国立国際美術館長)



《人体考察(髪)》昭和2年



《『氷島』の著者(萩原朔太郎像)》昭和18年



《フォルムNo.2 緑の交響》昭和22年

恩地孝四郎は日本の創作版画の偉大な父です。日本には江戸時代の浮世絵版画の技術と伝統的世界観が残り、それを打破るには大変な努力と能力が必要とされました。

勿論浮世絵版画の技術は、世界最高峰に位置するものと言ってよく、その色の素晴しさも充分に我々を楽しませてくれるものです。しかし明治以来日本の近代化に携わってきた人々のなかには、それでは満足できず、自分の考えや感じ方を直接画面に叩きつける芸術家も出て来ました。

絵の内容、技術、色等全てにわたって浮世絵の世界から脱却しようと試みるものでした。従って技術も新しく開発せねばならなく、色も自分の考えにあうものを見つけねばならなく、絵の内容も直接自分を表現するものでなければなりませんでした。

それはいわば自己との格闘といってもよいものです。新しき芸術家達は、あくまでも自己を表現することに力をそそいだ結果、それまで浮世絵版画で行われていた制作過程の分業を、自分一人で行うことにもなりました。ここに彼等の版画が新たに「創作版画」という風に呼ばれた一つの理由もあるのです。すなわち自画(自分で描く)・自刻(自分で刻む)・自摺(自分で摺る)以上三つの要素がそれです。

恩地孝四郎はそういう創作版画の確立につとめた一人です。したがって彼の芸術には開拓者の苦しみ・悲しみ・喜び・理想・希望といったものがさまざまの姿で数多く登場してきます。我々が恩地孝四郎の芸術に共感を覚える大きな理由はそこにあります。

その芸術には抽象作品も多いのですが、かならずそういったものを絵の内容に感じ取ることができるはずです。もちろん、恩地孝四郎は具象的な作品にも素晴しいものを残しております。とくに肖像画の作品には真に迫る力と対象への熱情が感じられます。

また、作品の抽象・具象に限らず、デリケートで緊張した線と、中間色の微妙な味わいが横溢し、ときには憂愁を、ときには生の原点を認識できるのも恩地孝四郎の芸術の大きな魅力です。

この展観には恩地孝四郎22歳(大正2年・1913)の時の作品から、歿年(昭和30年・1955)の作品まで幅広く網羅し、加えて従来展観されたことのない油絵・彫刻・オブジェ・版木・自著本・装丁本等も陳列いたします。

おもな出品作品

《抒情 あかるい時》大正2年
《水 浴》大正5年
《アトリエ室内》昭和5年
《リリックNo.2 楽曲によせる抒情 ドビュッシー"金色の魚"》昭和8年
《ポエムNo.2 野の属》昭和12年
《円 波》昭和14年
《E.H.心象像》昭和21年
《アレゴリーNo.2 廃墟》昭和23年
《コンポジションNo.2 文字》昭和23年
《リリックNo.13 日本の憂愁》昭和26年
《イマージュNo.8 自分の死貌》昭和29年

渋谷区 在住作家の作品 サロン ミューゼ(2階)

出品目録／作家略歴（50音順）

入山白翁　《渦潮》1978年　漆画　変形30号
明治37年（1904）　新潟県白根市に生まれる
昭和８年（1933）　東京美術学校漆工科卒業

大久保　泰　《トレドの眺め》1967年　F30号
明治38年（1905）　愛知県豊橋市に生まれる
昭和３年（1928）　早稲田大学商学部卒業　野口弥太郎・児島善三郎に学ぶ

大森啓助　《群泳》1976年　F30号
明治31年（1898）　兵庫県神戸市に生まれる
大正９年（1920）　関西学院高等部卒業　川端画学校で学ぶ

清原啓一　《古代壺の盛薔薇》1982年　F20号
昭和２年（1927）　富山県砺波市に生まれる
昭和27年（1952）　明治大学卒業　辻永に学ぶ

児玉幸雄　《オンフルールの漁港》1981年　F30号
大正５年（1916）　大阪市に生まれる
昭和14年（1939）　関西学院大学卒業

近岡善次郎　《スペインの思い出》1968年　M40号
大正３年（1914）　山形県新庄市に生まれる
昭和８年（1933）　文化学院美術部卒業　石井柏亭・有島生馬　山下新太郎に学ぶ

堀内正和　《かたむくカタチ１》1982年　高さ226.5cm
明治44年（1911）　京都市に生まれる
昭和４年（1929）　東京高等工芸学校彫刻部を中退、二科会の研究所(番衆技塾)に入り、藤川勇造に師事する

村田勝四郎　《少年とトキ》1967年　高さ137cm
明治34年（1901）　大阪市に生まれる
大正14年（1925）　東京美術学校彫刻科卒業　北村西望に師事、ひきつづき研究科に入り朝倉文夫に師事する

森　芳雄　《助ける》1977年　F30号
明治41年（1908）　東京に生まれる
大正15年（1926）　慶応義塾普通部修了。1930年協会洋画研究所に入り、中山巍の指導を受ける

脇田愛二郎　《コスミックボリューム》1981年　高さ100cm
昭和17年（1942）　東京に生まれる
昭和39年（1964）　武蔵野美術大学卒業
昭和40年（1965）　ニューヨーク、ブルックリン・アート・ミュージアムに学ぶ

開館時間　午前９時～午後５時（ただし、入館は４時30分まで）

休 館 日　毎週月曜日（ただし、第２週のみ日曜日）
祝日の翌日及び年末年始（12月29日～１月3日

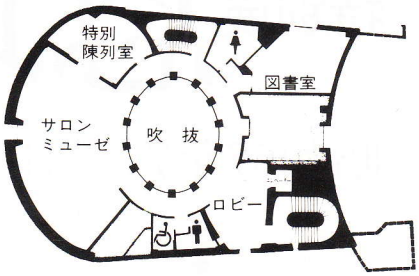
入 館 料

	個 人	団体(20人以上)
一　　般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

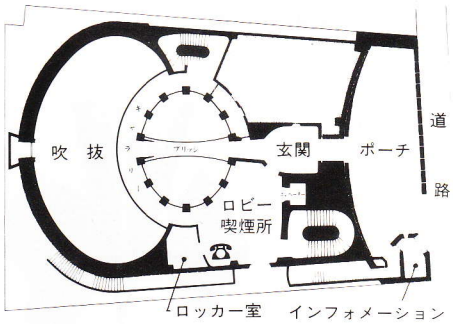
渋谷区立松濤美術館
〒150 東京都渋谷区松濤二丁目14番14号　電話(03)465－9421

松濤美術館・平面図

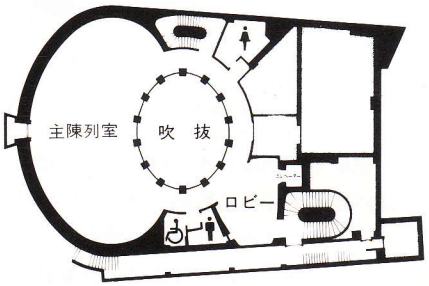
2階



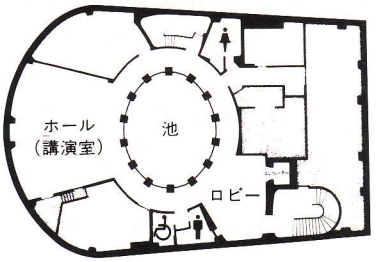
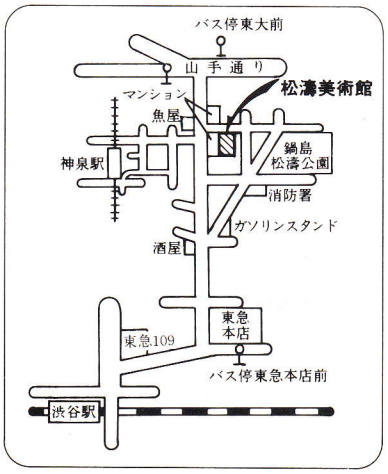
1階



地下1階



地下2階



案内図